

福祉生活病院常任委員会資料

(平成25年3月5日)

【件名】

- 1 第1回鳥取県立中央病院機能強化基本構想検討委員会の開催結果について
(病院局総務課) …… 1

病 院 局

第1回鳥取県立中央病院機能強化基本構想検討委員会の開催結果について

平成25年3月5日
病院局総務課

県立中央病院が高度な急性期医療提供の中核を引き続き担っていくための病院改革を具体化していくためのご意見をいただくことを目的として設置した「鳥取県立中央病院機能強化基本構想検討委員会」の第1回委員会を下記のとおり開催しました。

記

- 1 日 時 平成25年2月26日(火) 午後1時30分～午後2時45分
- 2 場 所 鳥取健康会館（鳥取市戎町317）
及び鳥取県西部医師会館（米子市久米町136）
※ TV会議システムを利用
- 3 出席者 出席者名簿のとおり（別紙）
- 4 報 告 東部保健医療圏のあり方の検討の経緯について（医療政策課）
- 5 議 題 東部医療圏における医療高度化とその方向性について

（主な意見）

- ・本県は高齢化が進んでおり、認知症があり、かつ心臓病などの急性期の合併症がある患者さんを受け入れる体制をつくる必要がある。
- ・災害拠点病院として、災害に強い病院をつくっていただき、災害時でも症状の重い方を受けることができるような体制をつくる必要がある。
- ・高度な医療の提供を目指すうえで、医師、看護師等の人材不足をどのように解決しようと考えているのか。優秀な人材が県立病院に集まってしまうと、周辺の急性期を過ぎた後の患者さんを診る病院のスタッフが不足しないか心配している。
- ・急性期医療を提供する一方で長期入院患者が多くおられるという問題があるが、これを解決しないと高度な医療の提供は難しいと思う。
- ・東部圏域のなかで病院の合併とスリム化を考えてほしい。
- ・病院や科ごとで機能分担を図るのは困難だと思う。ある程度の規模を持ちながらある程度総合的な機能を持たざるを得ないのではないか。
- ・自治体病院として県民にどのような医療を責任を持って提供するかをもう少し明確に打ち出してほしい。
- ・一極集中といった考え方だけでなく、危険分散という考え方にも留意してほしい。
- ・立地は現在地が良いと思うが、病床を500床以上に増やしながら今ある問題を解決するには、現在の立地で大丈夫か。
- ・東部圏域に高度医療を提供する病院ができることはいいことだと思うが、患者の一極集中が起きるおそれがある。患者さんの振分けも問題になってくるのではないか。

（別紙）第1回鳥取県立中央病院機能強化基本構想検討委員会 出席者名簿

第1回鳥取県立中央病院機能強化基本構想検討委員会 出席者名簿

	委員氏名	職名	備考
1	岡本公男	鳥取県医師会長	委員長
2	板倉和資	鳥取県東部医師会長	副委員長
3	北野博也	鳥取大学医学部附属病院長	西部医師会館・TV会議 で参加
4	山下裕	鳥取市立病院長	
5	福島明	鳥取赤十字病院長	(代理) 原豊 事務部長
6	齋藤基	鳥取生協病院長	
7	虎井佐恵子	鳥取県看護協会長	
8	米田由起枝	米田由起枝税理士事務所長	
9	林由紀子	鳥取県福祉保健部長	
10	生田文子	鳥取県教育委員会事務局 教育次長	欠席
11	柴田正顕	鳥取県営病院事業管理者	
12	日野理彦	鳥取県立中央病院長	

※県外有識者及び病院利用者の委員就任について現在調整中。